

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人 カオス		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方お一人お一人の想いや出来る事を大切に、随時カンファレンスを行い状態の把握や情報の共有に努め統一したケアに繋がっている。知識・技術を高めていくために毎月勉強会を行っており職員が積極的に意見を出し合える環境である。また入居者の方に笑顔で接していきようチームでケアにあたっている。入居者の方へのケアや事業所運営に御理解や御協力をいただいたりと御家族との絆が強いこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者及び職員は利用者寄り添いながら、思いや意向に添った支援をしており、利用者の表情が明るい。
 2. 協力医による往診体制と看護師の24時間オンコール体制が取られており、利用者の健康管理や緊急時の対応など、安心した医療が受けられている。
 3. 年間研修計画により研修会が行われており、職員の資質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が共に理念を作った事で、作成の段階から共有できており、日々のケアを振り返りながら実践につなげている。	開所時職員全員で作成し、理念に基づいた利用者本位の生活支援を行っている。また、職員それぞれが毎年個人目標を掲げ、より良いサービスが出来るよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、中学生の職場体験の受け入れ等を通して地域の方と交流している。又、その様子や行事の案内を広報誌でお知らせしている。	中学生の職場体験やボランティア等の受け入れや、クリスマス会等の事業所内行事の案内、招待等を通して、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居申込に来られた方、入居されている方のご家族の友人からの相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	近況や運営上の課題などを報告し意見を頂いている。頂いた意見は職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	委員として地域包括職員、地区役員、家族代表等が出席され、質問、意見、助言を得て、サービスの質の向上に活かされてはいるが、より幅広い分野からの委員選出が望まれる。	消防関係者、ボランティアの代表者など幅広い分野から委員選出も検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思うことは市の担当者の方に相談したり、運営推進会議に地域包括支援センターの方に出席していただき意見をいただいている。	日頃から事業所の情報を報告するとともに、医療、介護、体験学習の受け入れ等について、積極的に相談する等して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に積極的に参加しマニュアルを作成した。それを基に具体的な行為について職員全員に周知を図った。	研修会や勉強会を通して共通認識を図り、身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。また、玄関は日中は施錠しないで見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や勉強会で学んだ事を日々のケアで実践し、入居者の方の身体や行動に変化が見られた時は原因の解明・解決・改善を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し資料の回覧や勉強会で周知徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭および文書でお伝えし理解いただいている。疑問点などはその都度伺い納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や介護計画説明時、運営推進会議時に意見を伺っている。利用者の方にはその都度意見や要望を伺っている。	利用者からは日常生活支援の中から希望を聞いたり、表情や仕草から読み取っている。家族等からは面会時や懇談会を通して意見・要望を聞いて、事業所の運営に反映させている。また、運営推進会議にも家族代表の出席を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回ミーティングを実施し職員全員が意見、提案を言える場を設け運営に反映させている。	毎週開催しているミーティングの中で意見等を聞いている。また、年2回職員面談を実施して意見や提言を聞き、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を報告しており、代表者はその事を基に職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせた研修を受ける機会の確保に努めている。又、法人内で作成した教育プログラムに反映させ知識の共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修等で他事業所の職員と交流を図り情報交換をしサービスの質の向上に努めている。又、全体ミーティングでは関係機関等に講義を依頼し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のお話を傾聴すると共に、表情・動作からも想いを受け止めながら安心して生活していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い要望は時間をかけ伺っている。また不安や要望を言い易い環境・関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の言葉や想いをアセスメントシートに反映し、他事業所と協力しながらサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員は利用者の方の意向を伺いながら家事、レクリエーション活動等、一緒に行う事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を報告したり、ご家族から情報を得る等してケアに活かしている。行事等では準備の段階から参加していただき交流を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中から本人の大切な場所、行きたい場所を伺い一緒に出掛けている。ご家族の方も愛犬を連れて来られたり、葉書を送って来られたりしている。	本人が希望する思い出の場所へ外出するなどして、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しテーブルの座る場所に工夫をしている。職員も一緒に調理・洗濯物たたみ等しながら関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方から介護相談を受けている。又、新たな入居先からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の会話や行動から想いを汲み取り本人本位のケアを心掛けている。一つ一つ本人の意思を確認しながらケアを行っている。	日常生活支援の中から利用者の思いや希望を把握している。また、思いを発せない利用者には、表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。また、センター方式を活用し情報を共有して、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや回想法を活用し馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。ご家族が来所された時にも生活の中でのエピソードなどを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングやカンファレンスを随時実施し職員間で情報交換、意見交換し本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で行ったモニタリングの結果をご家族の方の来所時にお話し、ご家族の意見を伺い介護計画に反映している。	利用者、家族の意向を把握し介護計画を作成し、定期的なモニタリング等が行われている。また、必要に応じて1週間毎の評価も実施する等、現状に即した支援計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日常生活での会話や変化を記録し職員間で共有しケアや介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の身体的変化に合わせ安心・安楽な生活が送れるよう福祉用具のレンタル活用や、ケアの集中する時間帯に職員を補充している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理容店の方がホームに来て下さったり、町内会の皆様がボランティアに来て下さるなど地域の方の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で受診していただいている。基本的に受診は家族同行だが、緊急時ややむおえない場合は職員が対応している。	殆どの利用者が協力医を希望されている。通院は家族が付き添い、心身状態を記録し適切な医療が受けられるよう情報を共有し支援している。協力医による往診体制と看護師の24時間オンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方に変化が見られたら随時看護師に報告し指示を受けている。必要な場合は受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院された場合はケアの継続が図れるよう病棟看護師と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族と話し合いを行い事業所で出来る事・出来ない事を充分理解して頂くと共に、本人・家族の要望を伺い精神的・身体的にも苦痛の少ない終末期ケアを行うよう努めている。	利用開始後に看取り指針により、説明し事業所の方針を理解して頂いている。また、状態変化が見られたときは、医師、家族、事業所が話し合い、家族等の意向の確認と同意を得て、重度化や終末期に向けた方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で実施されている救命講習を受講するなど知識・技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回、地震避難訓練年1回実施している。消防署立会いで近隣の方の参加を呼びかけ避難訓練を実施予定。	火災想定避難訓練を年2回実施し、大震災を教訓に、防災頭巾の常備と地震を想定した訓練も実施されているが、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につける訓練としては不十分である。非常用品は備蓄されている。	火災、地震、水害等、各種災害を想定した訓練を数多く実施し、消防署の指導も仰ぎながら、利用者が安全に避難できる方法を職員が身につけられるよう検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として御話させていただいている。職員間でも点検、注意し合いその都度指導を行っている。	毎月開催の法人全体会議や事業所ミーティング等で、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けと、誇りやプライバシーに配慮した対応について周知徹底し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己選択、決定が出来るよう働きかけており、その時の本人の言葉や表情、動作から想いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを大切にし、その時々本人の意向や体調に添った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時や外出時の服を選んでいただいたり、訪問美容師の方が来られた時は本人希望の髪にカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	献立をお伝えしながら調理、盛り付けを一緒に行っている。食事と一緒に感想や要望、好みを伺い次に活かしている。	一人ひとりの出来ること、持っている能力を発揮して頂き調理、盛り付け、片づけ等を職員と一緒に、食事と共に摂りながら楽しい食事となるよう支援している。また、食事の感想や食事量等から嗜好を把握し、献立に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量・水分量をチェックしている。状態に応じ食事形態に工夫を加える等して栄養摂取、水分確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じ食前・食後に口腔マッサージ、口腔ケアを行い清潔保持、誤嚥防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンを把握し訴えの無い方にも自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表、表情、仕草から、排泄パターンや排泄時間を把握し、自尊心や羞恥心に配慮した声掛けと誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。その結果改善が見られる方も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動、マッサージ等を行い個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを尊重し、コミュニケーションをとりながら楽しんで入浴していただけるよう支援している。又、状態に応じて手浴や足浴を行っている。	週3回は入浴して頂けるよう体調やその日の気分に応じた入浴支援を行っている。また、季節に応じた菖蒲湯、家族から頂いた温泉入浴剤により楽しい入浴となるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調、生活習慣に合わせて起床・就寝・昼寝の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報提供表を活用しながら把握に努めている。内服変更時は記録し情報の共有、状態の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から家事活動やレクリエーション活動で力を発揮していただけるよう働きかけている。又、ドライブやコーヒーを飲みに出掛けるなど気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望、気分に応じて散歩、ドライブ、買い物に出掛けている。家族で外食や墓参り等にも出掛けられている。	日常的には散歩や食材の買い出し等に外出し、通院や買い物の際、ドライブを兼ねて市内の名勝地に出かけている。また、家族の協力で墓参りや食事に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を置きたい方には、本人の意思を尊重し家族の方の了解のもとに管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける時間など家族と前もって相談しておき本人の希望にそえるようにしている。手紙があった時は返事を出して頂くなど働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光・温度・湿度に留意し適切な環境となるよう配慮している。季節の花を飾ったり、行事の飾りつけなどで季節感を感じていただけるよう工夫している。	採光を考慮した造りで、湿度・温度管理を行い、共用空間にはさりげなく利用者の手作り作品等や、季節の花を飾り居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置く事で、いつでも休憩出来たり、一人で静かに過ごしていただけるような工夫をしている。また、和室は利用者同士・職員と洗濯物をたたんだりしながらコミュニケーションがとれる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	全室個室となっており、プライバシーに配慮している。入居時には本人の使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただき、落ち着いた暮らしていただけるよう配慮している。	自宅で使い慣れ親しんだ整理タンスや椅子、テレビ、思い出の写真等を持ち込み、部屋や飾り棚に配し居心地良く過ごして頂けるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の飾り棚を個別に色分けしわかり易くしている。生活感のある空間を大切に、混乱・危険のある物(場所)はその都度整備している。		